

優良賞

日本のテレビ番組がくれた物

钟 涛
ZHONG TAO

二〇〇六年、私はアイシン辰栄株式会社の研修生として来日して、早くも三年目になりました。

初めて日本の地に足を踏み入れる外国人が見たがるものと言えば、大抵、秀麗な富士山と桜があげられますが、実は私には、もう一つ見てみたい物がありました。それは、日本のテレビ番組です。初めて日本の「お笑い番組」を見た時の感想は、はっきり言ってとても変な番組だと思いました。パンツ一つになってスタジオで振る舞う“芸能人”という人達が出てきたり、中国のテレビ番組と全然違う雰囲気があって、変態だと思いました。

しかし、毎日テレビを見ているうちに、日本のテレビ番組が私の研修生活にとっても重要な影響を与えた事を述べたいと思います。

まず、日本の「お笑い番組」が好きになり、芸能人達の技を沢山覚えたことです。例えば、数字を数える度に、よく三の倍数になると声をあげる数え方で、数字を数える習慣が身に付きました。職場の日本人の前でやって見ると、ゲラゲラと笑いが止まらないくらい笑い始めるのです。次第に私の性格も朗らかになって、職場の仲間入りもできるようになりました。

その一方で、お笑いネタの面白さを覚えてしまった私は、ある時大失敗をしてしまいました。日本人の係長と雑談した時、係長と違う意見を

述べたいと思って「そんなの関係ねえよ」と言ってみたら、係長にガツンと怒られました。係長は、「そんなの関係ねえ！」と言うのは人を馬鹿にする言い方です。上の人に対する言い方は「そのようなことは関係がありません」と言わなければなりませんとおっしゃいました。結局、謝る羽目になってしまい本当に恥ずかしくてなりませんでした。やっぱり日本語は相手や場面によって使い分けて話さなければならない事を充分知りました。

テレビを見る事は、自分の視野を広めたり、知識が学べるので、日本語の勉強にもとても役にたつて、日本語能力試験の二級を見事に合格しました。そして、世界経済の景気動向や食品の安全性や国と国との間の科学と政治と文化交流等色々な事が勉強になって、世界情勢への感心を持つようになりました。

まさか私の研修生活が日本のテレビ番組との出会いでこんなにも変るとは思いませんでした。

私は後三か月程で帰国します。帰国する前に一度日本語能力試験の一級を挑戦してみたいと思います、帰国したら逆に中国の番組がつまらなく感じられるかもしれませんが、中国の友達に日本の“ゲー”な番組やオツパッピーな研修生活を伝えて行きたいと思っています。

さらには、中国と日本の法律制度や風俗習慣や文化等の違いを見つめ直して、日本の素晴らしい所を中国が取り入れるように伝える努力をして行きたいと思っています。

区 分	技能実習生
国 籍	中国
職 種	金属プレス加工
受入れ企業	アイシン辰栄株式会社
受入れ団体	東西商工協同組合